

令和2年度 沼津市地域公共交通網形成計画 推進スケジュール(案)

種別	令和2年度												備考	
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
地域公共交通協議会				第1回 スケジュール確認 運行状況把握	第2回 地域内循環 バス停改善 企画検討	第3回 地域内循環 バス停改善 企画検討	第4回 バス停改善 企画検討	第5回 バス停改善 企画検討	第6回 バス停改善 企画検討	第3回 協議案件 報告事項				
協議会作業部会													第6回 バス停改善 次年度事業	
I-③ 終電対策			状況分析 (実態調査は 次年度持越)											
I-④ 乗務員確保					庁内調整			就職相談会						
II-① 住民協議会支援	大岡協議会													
II-③ 大岡地域内循環タクシー					事業者協議	支局協議			乗合タクシー試験運行 (※時期は暫定、年明けもしくは翌年度に繰り越しも検討)					
II-① 住民協議会支援				戸田協議会										
II-② 自主運行等検討				西浦線検討				地元協議		③				長井崎小中 開校(R3.4～)
III-①② 沼津駅バスターミナル再編					プロボ発注	契約								
III-④ バス案内表示デザイン統一						契約								
III-⑤ バス情報オープンデータ					プロボ発注	契約	第1回	第2回	第3回	第4回				
III-③⑧ バス停の環境改善						対応検討	改善				③			
IV-② 企画乗車券等の検討			企画検討											
IV-③ バスイベントの開催			企画検討											
V-② 新技術の検証			県との調整											
V-③ 沼津港バスターミナル検討				発注 契約						5Gの活用		自動運転		市道建設課・ 県港務課 協議
その他		新型コロナウイルス感染症拡大防止 支援事業補助金実施	議会				議会	予算 要求	議会		議会			

Ⅱ-① 大岡地区住民協議会支援について

「大岡地区の新たな公共交通実証運行」

【平成 29 年度】

◆ 第 1 回実証運行 (H29.10~12 (3ヶ月))

- ・大岡地区連合自治会からの要望に基づき、伊豆箱根バス(株)のバス車両で沼津駅から大岡地区各所を繋ぐ定時定路線方式(13便/日・運賃は150円~200円)での実証運行を実施

(結果)・平均乗車人数は4.4人。

- ・日中(特に午前中)の利用が比較的多い。
- ・運賃の価格帯については概ね好意的な反応が多かった。

→乗車人数による採算性の課題が大きく、本方式での本格運行は困難であると判断。



時刻	6:45	7:10	7:55	8:50	9:50	10:40	12:20	13:10	14:00	15:00	16:00	16:50	17:50	合計
平均乗車人数(人)	1.5	2.0	3.9	5.0	5.4	6.3	6.0	5.3	4.3	3.3	4.1	3.9	5.1	4.4

【平成 30 年度】

- ・H29 実証運行結果を踏まえた検討継続のため、「大岡地区公共交通推進住民協議会」が正式に発足。
- ・富士宮市事例視察やワークショップを実施し、地域が求める公共交通の形式、実施に向けた課題抽出を行った。

【平成 31(令和元)年度】

- ・勉強会やアンケート調査、事例視察(神奈川県川崎市、愛知県北設楽郡、愛知県豊明市)を行った。
- ・2年間の視察、研究を踏まえ、新たな方法での第2回実証運行の令和2年度実施を目指すこととした。



【令和 2 年度】

- ・実証運行実施に向け、方式について検討。

買い物、通院及び地区センター行事への移動を目的とした事業設計とし、エリアとしては駅までのルートを除く(地域内循環)し、実施方式については下記をベースに検討することとしている。

- ① 定時定路線方式(事業者運行委託)
- ② 定時定路線方式(車両借上げ、地区ボランティアによる運行)
- ③ デマンド方式(事業者運行委託・運賃定額制)
- ④ デマンド方式(事業者運行委託・運賃変動制)
- ⑤ デマンド方式(車両借上げ、地区ボランティアによる運行、デマンドシステム「チョイソコ」活用)

※実証運行について当初秋口の実施を計画していたが、新型コロナの影響による協議会の開催順延、乗合という行為に対する住民意識の変化などを考慮し、時期については再検討中。

Ⅱ-① 戸田地区の住民協議会支援について

《概要》

戸田地区では、市自主運行路線として、西浦線（沼津駅～戸田間）、戸田-江梨線、戸田-土肥線の3路線と事業者路線として修善寺-戸田線（地域間幹線系統・国、県補助対象）の計4路線が運行されている。

地元から、令和元年11月27日付要望書により、新たに戸田地区内を循環する乗合タクシーを創設したい意向が示されたが、既存路線について利用状況が低い水準に留まっていることから、新路線の検討にあたっては戸田地区の公共交通が日常的に利用され、持続可能なものとなるよう抜本的に見直す必要がある。

令和2年度では、検討のための体制づくりとして、地元主体の協議会設置について、市が必要な支援を行う。

《戸田地区の公共交通の現状》

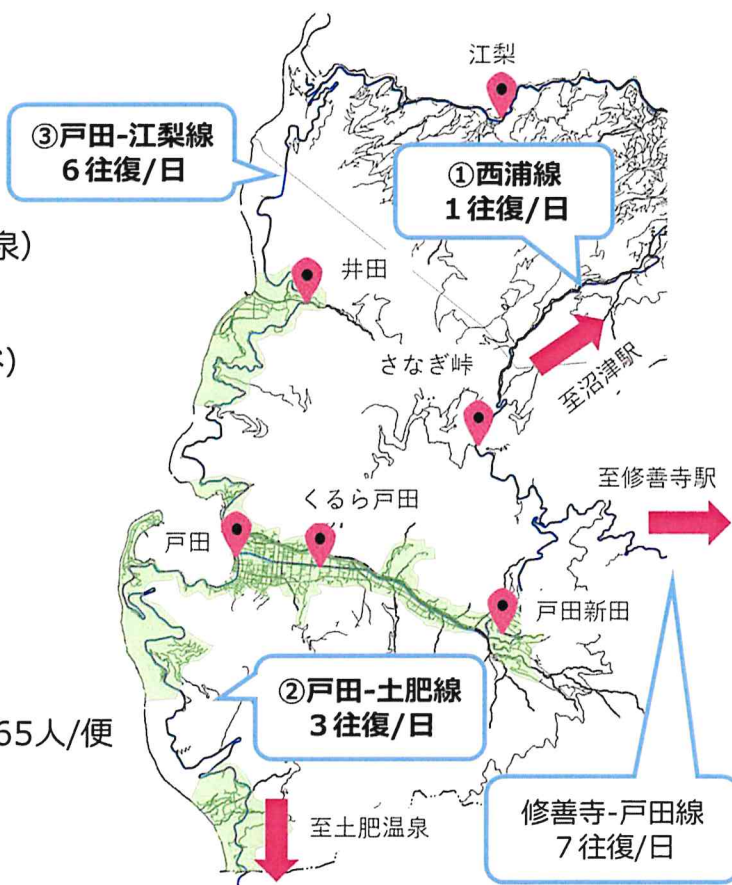
R 1 補助額

- ①西浦線（沼津駅～戸田）
4,808,000円（2,033,000円）
- ②戸田-土肥線（戸田新田～土肥温泉）
9,561,000円（4,058,000円）
- ③戸田-江梨線（戸田～江梨・デマンド）
7,555,000円（1,876,000円）

合計 **21,924,000円**
（うち県補助 7,967,000円）

R 1 平均利用者数

- ①0.75人/便 ②1.00人/便 ③1.65人/便
- ※戸田～さなぎ峠間



《地元からの主な要望》

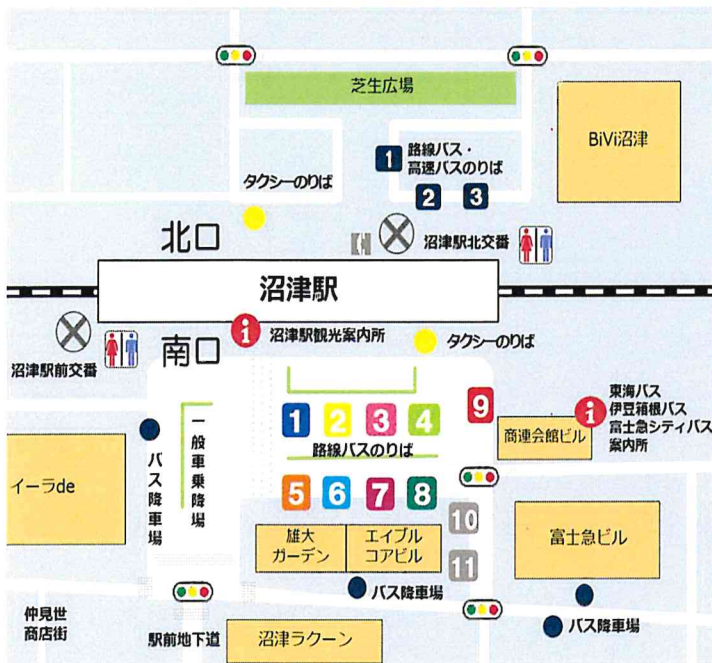
- ・地区内を循環する乗合タクシーの創設
- ・戸田-江梨線における夕方の増便
- ・戸田-土肥線における昼間の便の増便
- ・井田からの通学対応

Ⅲ-①② 沼津駅バスターミナル再編について

《令和元年度の取組み（実施済）》

- ・ 0 番、9 番、10 番、11 番乗り場を新設（0 番は令和 2 年度暫定）
- ・ ターミナル内 8 バース + 富士急 5 バースをターミナル内の 10 バースに集約。
- ・ 10、11 番乗り場は学校・臨時便専用乗り場とする（富士急シティ：暁秀高校・沼津東高校）
- ・ 沼津港行きは 0 番乗り場の 1 か所に集約（伊豆箱根・東海）
- ・ 新たなバス待機所の運用。

先行方面別再編完成イメージ案（令和 3 年 4 月 1 日供用開始）



乗り場	行き先(方面)	経由地	会社名
1	沼津港/明電舎	上土、千本入口 千本浜公園	伊豆箱根バス 東海バス
2	外原温水プール/我入道循環 木の宮/下香貫循環	霊山寺、江川町 藤井原	東海バス
3	多比/伊豆長岡駅 大瀬岬/江梨/木負/戸田	御用邸、獅子浜 多比、長井崎、河内	伊豆箱根バス 東海バス
4	大平/沼商	中徳倉、徳倉団地	東海バス
5	三島駅	医療センター、卸団地 新道、旧道	伊豆箱根バス 東海バス
6	大岡循環/三島駅	加藤学園前/大岡駅前	伊豆箱根バス
7	免許センター/あしたか運動 公園/北小林/がんセンター/ 拓南東/沼津ゴルフ場	高尾台、宮下、門池公園 東高入口、東名沼津	富士急シティバス
8	市立病院/ららぽーと/東平沼	本田町、江原公園	富士急シティバス
9	東田子の浦駅/原団地/ 市立病院/ららぽーと	西間門、大諏訪、今沢	富士急シティバス
10	学校	直通	富士急シティバス
11	学校	直通	富士急シティバス

再編に伴い移動・統合する路線案

乗り場	行き先(方面)	経由地	会社名
0	沼津港/明電舎	上土、千本入口 千本浜公園	伊豆箱根バス 東海バス
1	外原温水プール/我入道循環	霊山寺、江川町	東海バス
2	多比/伊豆長岡駅	御用邸、獅子浜	伊豆箱根バス
3	木の宮/下香貫循環 大瀬岬/江梨/木負/戸田	藤井原 多比、長井崎、河内	東海バス

乗り場	行き先(方面)	経由地	会社名
1	沼津港/明電舎	上土、千本入口 千本浜公園	伊豆箱根バス 東海バス
2	外原温水プール/我入道循環 木の宮/下香貫循環	霊山寺、江川町 藤井原	東海バス
3	多比/伊豆長岡駅 大瀬岬/江梨/木負/戸田	御用邸、獅子浜 多比、長井崎、河内	伊豆箱根バス 東海バス

《令和 2 年度の再編に伴う実施内容（案）》

- ・ 0 番乗り場の廃止。
- ・ 0 番乗り場の「沼津港/明電舎」を 1 番乗り場へ移動。
- ・ 1 番乗り場の「温水プール/我入道循環」は 2 番乗り場へ移動。
- ・ 2 番乗り場の「多比/伊豆長岡駅」は 3 番乗り場へ移動。
- ・ 3 番乗り場の「木の宮/下香貫循環」は 2 番乗り場へ集約。→ 2 番乗り場のダイヤ調整
- ・ 3 番乗り場の「大瀬岬/江梨/木負/戸田」は 3 番乗り場へ集約。→ 3 番乗り場のダイヤ調整

Ⅲ-④ バス停案内表示マニュアル作成について

資料 1 - 5

《目的》

バスターミナル再編に伴い、これまで事業者ごとに表示・設置していた沼津駅南口バス乗り場や各停留所標柱の案内について、利用者にとってよりわかりやすい案内表示を提供し、路線バスをより使いやすくするため、市内3事業者統一のバス案内表示デザインを制作し、制作したデザインを基本デザインとして取りまとめた「沼津市バス案内表示デザインマニュアル」を作成する。

《バス案内表示の現状》

沼津駅バス乗り場（南面）



表示方法に統一感がない乗り場標柱

バス停留所



停留所ポールの形状や表示も様々

時刻表



時刻表も各社独自の様式で作成

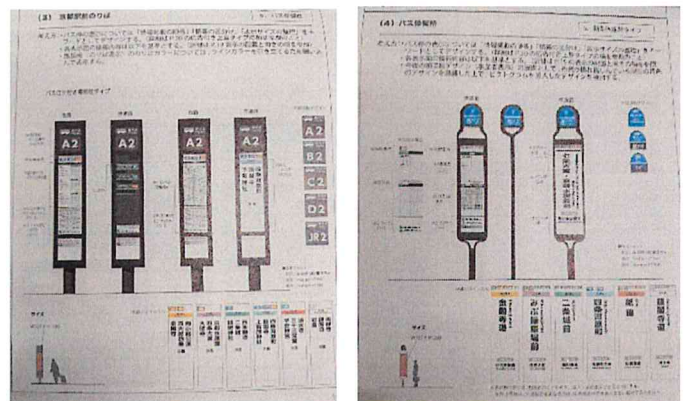
案内表示等デザインの統一を図り、利用者にとってわかりやすい案内表示へ

《マニュアル作成までの流れ》

- ① 交通まちづくり検討部会（次回8月開催予定）の中で、案内表示方法の素案を検討。
- ② 素案をデザイン化し、いくつかの案の中からデザインを決定。
- ③ 決定された統一デザインをマニュアル化し、「沼津市バス案内表示デザインマニュアル」を作成。
- ④ 令和3年4月1日の新乗り場供用開始にあわせ、マニュアルに沿って沼津駅南口バスターミナルの乗り場標柱（1～8番）について、案内表示を新デザインに一斉変更。
- ⑤ 令和3年度以降、停留所等その他の表示についても、マニュアルに沿って随時変更。

《参考例》

京都市では、平成26年3月に「市バスのわかりやすさ向上のためのデザインマニュアル」を策定し、バス乗り場や主要停留所の案内表示、路線図、バス方向幕等の基本デザインの指針としている。



京都市：市バスの「わかりやすさ」向上のデザインマニュアル

Ⅲ-⑤ 標準的なバス情報フォーマットによるデータ作成について

《目的》

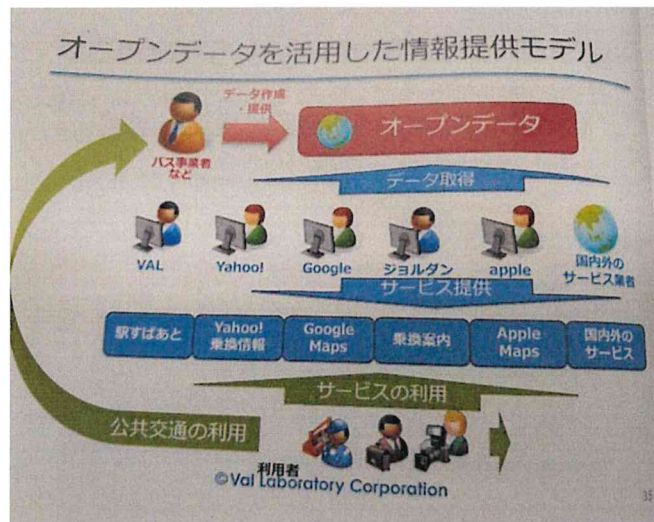
国土交通省では、インターネット等での経路検索におけるバス情報拡充のため、平成 29 年 3 月にバス事業者と経路検索事業者との間でバス情報データの受け渡しをするための「標準的なバス情報フォーマット (GTFS-JP)」を定め、バス運行情報のオープンデータ化の推進を図っている。

このような動きを踏まえ、本市においても、バス利用機会の創出を図ることを目的として、運行情報データを整備しオープンデータとして公開していくため、市内バス事業者を対象とした「バス情報オープンデータ化講習会」を実施する。

《バス情報オープンデータ化講習会》

- ・市主催による講習会を実施。
- ・市内バス事業者 3 社を対象。
- ・実施は 9 月～12 月の 4 回程度 (月 1 回) を予定。
- ・専門講師を招き、実習形式で実施。
- ・今年度末までにデータ作成・オープンデータ化を目指す。

※運行データを整備しオープンデータとして公開することで、国内外のインターネットの経路検索サイトや乗換案内アプリに掲載できるようになる。



オープンデータ情報提供イメージ図

Ⅲ-③⑧ バス停環境改善について

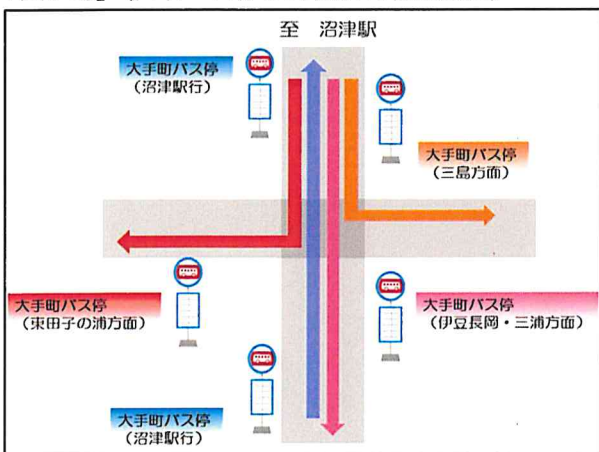
《目的》

市内では現在、同名バス停が事業者ごと、方面ごとに複数設置されていたり、現在では利用されていない施設名が使われているなど名称に課題のあるバス停や、設置位置など環境に課題のあるバスが複数存在している。また、標準的なバス情報フォーマットによるデータ作成及びオープンデータ化を実施するにあたっては、利用者に正確な情報を提供できるよう、バス停名の見直し等を行う必要がある。

バス停名称及び設置環境に課題のあるバス停を抽出し、利用者にとってわかりやすく使いやすいバス停となるよう、今年度より改善を進めていく。

《バス停改善が必要な例》

「大手町」(同名バス停が方面別に複数設置)



「三津」 「三津郵便局」

(同位置だが別名称)



「市場八幡」

(同位置に 2 本設置)



V-③ 沼津港のターミナル化による乗り場の集約について

資料 1-7

平成 27 年度に静岡県が策定した「沼津港みなとまちづくり推進計画」において、内港北側に観光バスや路線バス、タクシーなどの乗降場の整備を行うバスターミナル化が計画されていることから、この計画と連携し、事業者ごとに設置されているバス乗り場を集約し、利用者の利便性を高めます

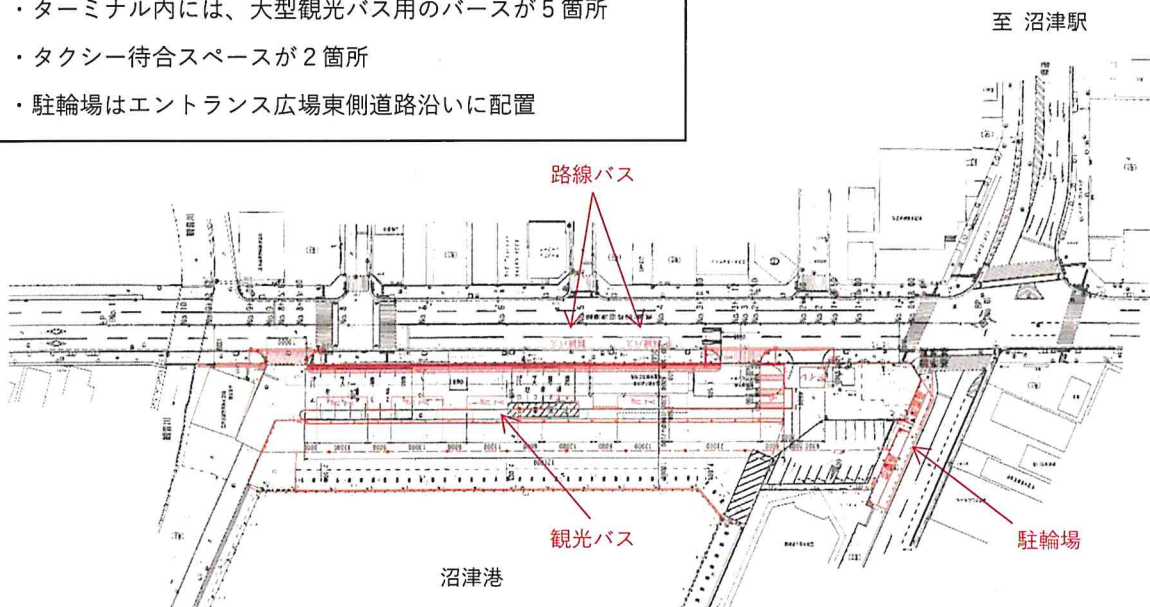
「沼津港みなとまちづくり推進計画」における玄関口のイメージ

- ・観光バスは、乗客をターミナルで乗降させ、バスは外港で待機
- ・路線バスや高速バスのバス停をターミナルに設置
- ・タクシーの乗降場を設置し、バスターミナル機能を充実
- ・駐輪場をバス・タクシー乗降場付近に設置



現在の設計案

- ・路線バス等は、県道沿いのバス停を使用
- ・ターミナル内には、大型観光バス用のバースが5箇所
- ・タクシー待合スペースが2箇所
- ・駐輪場はエントランス広場東側道路沿いに配置



⇒ 交通事業者、静岡県、漁港関係者などと協議しながら、ターミナル計画を修正します。